

薩摩焼古典柄原図の図案化と用途展開

企画支援部

1 はじめに

当センターでは、「大迫政次郎筆 白薩摩焼上絵図録」（以下図録）を所有しています。この図録は保存状態は良好ですが、大変古いものであることから、今回その保存を図るとともにその図録の資産価値を利用した工芸的活用に取り組みました。

2 図柄の要素別の分類、抽出

図録は全部で129枚現存しており、これをコンピュータによりデジタル化し、さらに図柄要素別に分類、抽出（パーツ化）しました。抽出した原図は、具象文様が172点（植物や動物、武者絵など）、幾何学文様（割文様）が273点になりました。

3 原図の展開事例（白薩摩焼への展開）

パーツ化された原図のデータを拡大縮小し、色彩変更などを行い、新しい原図を作成し、白薩摩焼へ展開しました。

絵付士に、原図を提示することで金彩を施すなど協議が活発に行われ、華やかな花瓶が完成しました（図1、2）。

（花瓶絵付協力：絵付工房 秋月窯）

4 原図（幾何学文様部分）の展開事例 （木工製品への展開）

コンピュータを利用して、原図の幾何学文様のデータを再構成し、レーザー加工機などを利用して木製品などへ展開をしました（図3、4）。

（試作協力：蔵前宮殿製作所・大和木材(株)）

5 おわりに

その他、屋久杉製品の彫刻やパッケージデザインなどにも展開を行いました。今後は川辺仏壇の彫刻や蒔絵など他の工芸品への利用も考えています。

原図を閲覧したい、原図を使って工芸品等に加飾をしたいなど、ご希望の企業の方は、お気軽にご相談ください。また、成果品の一部は当センター1Fのショールームにて展示しております。



図1 再構成した原図



図2 白薩摩焼花瓶への展開



図3 木製コースター



図4 竹炭ボードカバー